"S-TTL"自動調光の露出精度サンプル画像

『D-2000』("S-TTL 自動調光モード")を使用した場合と、デジタルカメラ内蔵ストロボのみを用いた場合、双方のサンプル画像を、カメラ側絞り値を変化させて撮影/列挙致しました。

イノン『D-2000』が持つ"S-TTL"自動調光モードが、いかに高精度の露出制御を行なうかをご確認下さい。

2004年11月30日 有限会社イノン

テスト条件

・カメラ/ハウジング (*1): Canon PowerShot S60 / Canon WP-DC40

・外部ストロボ: D-2000

・カメラ側撮影パラメータ: 本ページ中よりリンクされた元画像(未編集)の EXIF 情報参照のこと。

内蔵ストロボに"クリアフォトフィルム" (*2)を貼っています。

・ストロボ側設定: "S-TTL モード"、EV.コントロールスイッチ: "B"

(*1) 2004 年 11 月 30 日現在、S60/WP-DC40 への対応製品を開発検討中です。 本テストでは、開発検討中である、"光 D ケーブル"、および"マウントベース"を使用して、D-2000 との接続を行なっています。

(*2) 内蔵ストロボ光の可視光成分を洩らさずカットする事で、"S-TTL"モードでの正確な露出制御を実現する、イノン"クリアフォトシステム"を構成するフィルターです。

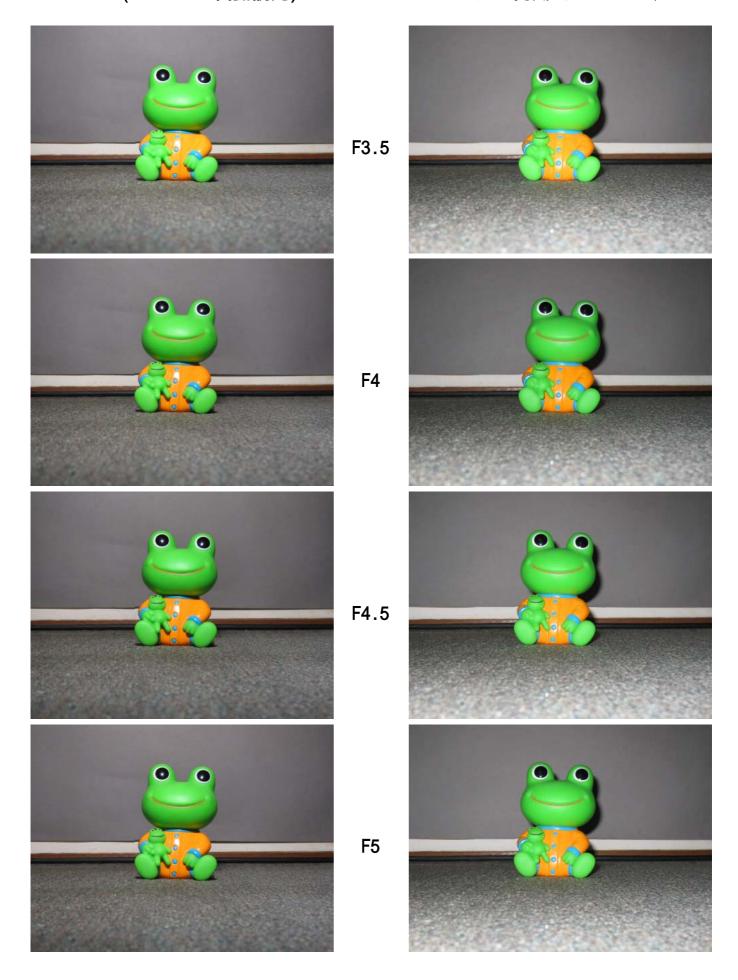
<u>"S-TTL"自動調光の精度を高める為に必要不可欠なアイテムです</u>。もちろん、"クリアフォトシステム"を使用することで、レンズ前のゴミの乱反射を抑え、"マリンスノー"現象のほとんどない、クリアな画像を得られるという効果もあります。





D-2000("S-TTL"**自動調光**)

カメラ内蔵ストロボのみ



D-2000("S-TTL"**自動調光**)

カメラ内蔵ストロボのみ

